

## 令和2年度第1回大阪府まち・ひと・しごと創生推進審議会 議事概要

日時：令和2年8月31日10時30分～12時30分

場所：プリムローズ大阪 2階 鳳凰

- ・ 審議会における主な質疑、意見等は下記の通り。

### 《議題1 第2期戦略の進捗管理に係る目標指標について》

(委員)

- ・ 参考指標を設けたのは一歩前進だが、あくまで参考数値であり、KPIではないという点について、例えば、女性の就業率について、年齢階層別女性の有業率を参考指標としているが、年齢別での具体的な施策がなく、ただ単に数字を見ていくということであれば KPI 指標の達成に繋がるのか。参考指標が何も施策に繋がらないということであればいかがなものかと思う。
- ・ 資料1別紙の新型コロナに伴う事業への影響については、大阪府の予算がコロナの影響により事業の取組みに影響を与えるか否か、という理解をした。事業の中には、コロナの影響が大きいと思われる事業もあるが、どのように思うか。

(事務局)

- ・ 参考指標については、戦略本体の KPI としては設定していないが、参考指標を数値として追っていく中で、施策として足りない部分等について、今後の分析、検討の材料としていくことを想定しており、ただ観測対象でしかないという認識は持っていない。
- ・ 資料1別紙にもある通り、新型コロナ感染症に伴う事務事業見直しは、大阪府の予算上の議論として議会で議題に上がることになる。その中で、既存事業についても新しい生活様式を踏まえた上で、どういった事業スキームに変更していけばよいのかという議論もなされることになる。

(委員)

- ・ KPI は多数設定するよりも、数を絞ってシンプルであるべきと考え方には同意。
- ・ ただ、いくつか参考指標について、指標が上がればいいのか下がればいいのかどちらかはっきりしないものがある。例えば児童虐待相談対応件数についてどちらでも考えられると思うが上昇したほうがいいのか、減少したほうがいいのか事務局はどうとらえているのか。またいじめの解消率はその設定自体が課題の本質的解決に繋がっていないと思う、さらに、出生数について、若い世代の人口が増えたことで出生数は増えるが、出生率は上がっていないということが起こりうるが、出生数の増加を目指しているのか、ただ一方で KPI は出生率を設定している。

KPI・参考指標の扱い方について、また整理するときにそういった視点で見てほしいと思う。

(事務局)

- ・ 児童虐待相談対応件数について、児童虐待は発見件数がかかなり増えており、また相談対応をしている数も増えている。また、参考指標の考え方、取り扱い方を整理したい。

(委員)

- ・ 新型コロナに伴う事業の影響について、影響なしとされている事業についてどのように設定されたのか。
- ・ 影響なしとされた事業の目標値についてどのように考えているのか。

(事務局)

- ・ 影響なしとなっている事業は、現状において、予算上の影響なく事業が進められるものである。目標については今後の状況も踏まえ変更させていただく可能性もあるが、その際はまた審議会で報告する。

(委員)

- ・ 影響なしとされている事業は本当に影響なしでいいのか。例えば外国人留学生に関する事業では影響が出てくると思われる。目標の達成についても難しいのでは。影響なしという記載は、見込みなどの表現に変えた方がいいのでは。

(事務局)

- ・ あくまで、現時点での新型コロナの影響をお答えしている。今後府の中でも議論を深めて、影響なしとなっているものについて、目標の再設定についてご相談させていただくことになるかと思う。

(委員)

- ・ コロナの影響については、もちろん誰にもわからないと思う。なので、例えば見込みの表現とするとか、変わる可能性があるということをはっきりと資料に表現する方がよい。

(事務局)

- ・ ご意見を受け、表現について検討させていただく。

(委員)

- ・ 公民戦略連携デスクの設置・運営事業について、活動指標の企業等と部局との連携数について令和2年度目標値が令和元年度実績値より下がっているのはなぜか。
- ・ また、当該事業について、コロナの影響なしとなっているのは問題ないのか。

(事務局)

- ・ 新型コロナの影響を受けた上での目標を踏まえた上での目標値を掲載したいとの事業課からの意見を踏まえて設定したもの。

- ・ 新型コロナの影響の欄は、予算議論としての影響があるかについて現時点の状況を記載している。事業全体としては影響があるので、表現の仕方を検討する。

(委員)

- ・ 参考指標の取り扱いについて、例えば年齢階層別の女性の有業率について10代後半は女性の有業率が全国を上回っているが、その上の年代からは下がっているように、年齢層によってかなり大きな違いがある。それらを全体的に把握した上で、今後の取組みの検討がされていくというのは理解しているが、最終的に、主な取組みを実施した後の実施報告の段階において、この参考指標がこのような状況にあるから、このような取組みを実施した、というような報告ができれば、結果的には戦略の中で参考指標が大きな意味を持つことになると思う。  
なお、KPI 指標については、まち・ひと・しごと創生総合戦略がかなり広い範囲の戦略であることからすれば、シンプルにするのが望ましいと考える。
- ・ 新型コロナの影響に関して、現段階において、現状把握がどれぐらいなされているか教えてほしい。

(事務局)

- ・ 新型コロナの各事業への影響については、現在把握に努めているところであり、9月議会での議論を経た上で、次回会議にて報告させていただく。

(委員)

- ・ 次代を担う人づくりを推進するにあたって、参考指標として英語 CEFR:A2以上とあるが、現在は、英語ができないことよりも、パソコンスキルが不足していることを課題としているケースが多い。ITスキルを学習することを重視することが、次代を担う人材を育成するにあたり必要ではないか。

(事務局)

- ・ ご意見を踏まえ、担当部局と今後相談する。

(委員)

- ・ 基本的方向としてI 1 (1)で若者の安定就職、職場定着支援が挙げられており、これを読むと例えば安定的な正社員の比率が上がるというようなことを想定しているのかと思った。  
もっとも、参考指標は単純に年齢別就業率となっている。  
また、Ⅲ⑤(1)で基本的方向として産業の創出・振興が挙げられているが、これは目標として、新しい産業の創出をイメージしているように思うので、参考指標としては、多様な人材が活用されていることを示す外国人の就業率や、高度人材登用の比率であったり、新しい産業の創出の状況について把握するために、新産業の産業比率等を参考指標とすべきではと思う。
- ・ このように、参考指標の設定について、基本的方向性から設定されているのか、それとも、主な取組みの活動指標とKPIを繋ぐものとして設定されているのか。事務局としてどういふスタンスで参考指標

を設定されたのか。

(事務局)

- ・ 戦略の KPI について、かなり数を絞り込んだこともあり、戦略の基本的方向性の進捗状況を図るための KPI が網羅的に設定されていない状況であることから、戦略本体の KPI の補足するものとして参考指標を設定した。また、戦略本体の KPI 指標と主な取組みとを繋ぎ、補足する指標をということでも設定している。
- ・ 一義的には、本体の KPI を補足するものとして参考指標を設定し、加えて主な取組みと KPI との繋がりを補足するものとして参考指標を追加している。

(委員)

- ・ Ⅲ⑤(1)で基本的方向としての産業の創出・振興の進捗を図る補足指標としての参考指標については、もう少し違った参考指標もあっていいのではと思う。検討してほしい。

(事務局)

- ・ いただいたご意見を参考に、参考指標について今後検討する。

(委員)

- ・ 参考指標の取り扱いについて、参考指標は毎年見直されるものと考えてよいか。

(事務局)

- ・ 参考指標は一義的には、戦略本体の KPI を補足するものと考えている。戦略本体は毎年変わるものではないので、その意味での参考指標は変更を予定していない。一方で、主な取組みと本体の KPI を繋ぐものとして設定する参考指標については、今後、追加・削除することも想定している。

(委員)

- ・ 今の話を聞いて納得した。あくまで参考指標であることから、参考指標に引っ張られて、戦略本体の進捗管理ができないというのは本末転倒。戦略本体の進捗状況を図っていくために、必要に応じ参考指標を差し引きしてもらうことについては、都度説明してもらえれば問題ないと思う。

(委員)

- ・ 外国人留学生就職支援事業について、令和2年度の目標値が、令和元年度実績を下回っているが、現在各企業は、企業の見学会や就職面接などはオンラインに切り替えて実施していると聞いている。配信の仕方、コンテンツに気を配ればオフラインでなくとも問題なく事業は実施できると思われるがいかがか。
- ・ これに関連して、今回私はオンラインで参加しているが、ZOOM での参加を打診するにあたり、大阪

府として、ZOOM の有料会員資格を取得しておらず、今後も取得予定が今のところないとの回答だった。学生等はオンラインツールとして主に ZOOM を使用している。大阪府として IT 化を進める方針なのであれば、ZOOM についても府として、導入と予算を検討すべきではないか。

(事務局)

- ・ 就職セミナー、企業セミナーについて、オンラインで実施したりはしている。令和元年度実績値より低い目標となっている点については、今後の状況も踏まえてどのように考えるか検討する。
- ・ リモートについては、大阪府全体として中々進んでおらずまた検討する。

## 《議題 2 第 1 期戦略の具体的目標の進捗状況及び効果検証について》

(委員)

- ・ 資料 2 の p.4 基本目標⑥来阪外国人の実績値としては 1,231 万人ということで、2019 年の目標であった 1,224 万人を達成しているが、今後新型コロナウイルス感染拡大の影響で、来阪外国人数が大きく落ち込むことが今後予想されるとの記載がある。大阪府は、代替案として、他の都道府県で積極的に取り組んでいるマイクロツーリズムなどの検討はしているのか。

(事務局)

- ・ 現在、国で Go To トラベルキャンペーンを行っているが、大阪府では独自の取組みとして、近畿 2 府 4 県を対象に大阪府の宿泊施設をご利用いただく方に対してポイントを還元する仕組みをしている。
- ・ また、大阪府内全域に観光客を呼び込むため、大阪観光局を中心に地元の市町村と連携して各地域の新たな観光資源の掘り起こしの取組みを行っている。

(委員)

- ・ 基本目標にあげている指標と参考指標が一部重複している。基本目標で記載しているが、参考としても見なくてはならない別の視点を持っているのかを教えてください。

(事務局)

- ・ 参考指標は、二重で記載しているわけではなく、基本目標よりもより広い範囲でご確認いただくために記載している。

(委員)

- ・ 基本目標と参考指標が違うのであれば、書き分ける必要があるし、ないのであれば、参考指標として無理に記載する必要はないと思う。今後入れ替わる可能性があるのであれば、無理に設定するとそこに目がいってしまう。

### 《議題3 第1期戦略に基づく令和元年度事業の効果検証について》

(委員)

- 資料4 総合戦略の方向性 I 新子育ての支援交付金について、認定こども園の数の達成率が80%で、実績値は計画策定時と比較するとかなり増えている。ただ、実績値 656 というのは良い数字と捉えるべきか、指標値に達していないため悪い数字と考えるべきなのかどちらか。

(事務局)

- 認定こども園の設置は子育て支援や待機児童数を解消し、保育の必要な子どもが保育園や認定こども園等に入ることを目標としている。目標値には未達だが、結果としては、認定こども園の数は増えており、認定こども園等を利用できる子どもが増えているので、一定目標は達成していると考えている。

(委員)

- なぜ、目標を達成出来なかったのかという理由について、どういう形で把握されているのかを教えてください。個人的には、背景を知る・理解する必要があると思う。

(事務局)

- 大阪府における認定こども園の目標数値の設定は、大阪府が策定している事業計画の数値であり、保育の実施主体が市町村であることから、市町村の各事業計画における認定こども園等の設置予定の数の集計となっている。
- 大阪府の実情としては、市町村の認定こども園の設置促進のために補助金の交付や説明会を開催している。
- 市町村から、認定こども園の数が目標値に達しなかった理由は、地元住民に対する説明が進まずに、計画通りに建設が進まなかった等の個別の事由はお伺いしている。

(委員)

- 大阪府として各市町村の個別の事情を取りまとめた上で、府はどのような事情をどのような形で総括してどのように感じているのかを教えてください。

(事務局)

- 大阪府としては、認定こども園は保育を必要とする子供や地域の子育て支援の取組みを達成するための目標としている。各市町村の個別の事情に対しては、総括出来ていないというのが現状。

(委員)

- 総括は必要ないのか。

(委員)

- ・ 資料 4 について、数値の解釈の仕方がわからない。個別の事情を教えてくださいと理解できるが、一目見ただけではわからない。数値が上がれば良い、下がれば良いと示していただかなければならない。
- ・ 府としてはやることはやったが、結果として認定こども園が増えていない、あるいは出生率が増えていないのであれば仕方がない。府として出来ることはしたと言い切れる目標や目標設定でないのであれば、変えていかなければいけないし、府として頑張ったということをもっとアピールしていただきたい。新規施策の場合、目標設定が出来ないと言うが、見込みぐらいはあると思う。資料 4 P.3 の達成率が 300%や 400%となっている項目に対しては、目標設定が本当に正しかったのか、とってしまう。今後取りまとめる際に、ご指摘いただく必要があるのではないかと。

(委員)

- ・ 資料 4 p の一部事業については、予算の執行率が 100%となっていない。予算を下回った理由及び、下回っているにも関わらず費用対効果が上がっているポイントがあれば教えてください。

(事務局)

- ・ 大阪（もん）戦略的輸出促進事業について、予算額が執行率 74%という部分であるが、コロナの影響で年度末に大きく事業を縮小もしくは休止をする必要があったため、26%の減少があった。
- ・ 達成率については、委員からご指摘があったとおり、そもそも目標値に問題があったのではないかと。また、大阪もんを輸出するという初めての取組みであったために、少し消極的な目標値になってしまった気がする。しかし事業としては、企業団の派遣も非常に上手いき、マレーシアから府内に直接バイヤーを誘致できるなど非常に効率的な事業運営が出来たという印象。以上の 2 点が重なり合い、このような達成率になったと分析をしている。今後は、指標値を見直す必要性について部内で検討中。
- ・ ナイトカルチャー魅力創出事業の予算の執行率について、警備等の業務については入札で事業者を決定するので、予算よりも入札額が下がってしまうため、差が生じる。
- ・ 公共交通機関等と連携した受入環境整備事業の予算の執行については、鉄道事業者が行う事業案内サイン等の整備について大阪府は 2 分の 1 補助するという事業。あらかじめ事業者の整備予定をお伺いし、それを踏まえ、予算を計上する。その後、事業者からの申請に基づき補助金を交付する。事業者において、実施される入札による落札差金や効率的な施工方法ができる等により、結果として当初想定していた予算よりも低い実績額となったが、内容としては、当初予定以上の実績値となっている。
- ・ 実績値については、当初毎年 3 駅以上できるよう計画していたが、補助を行うことで認知度が上がり、事業者の要望も増え、令和元年度は 9 駅となっている。
- ・ 実績値については、当初毎年 3 駅以上の実績ができるよう計画していたが、補助を行うことで認知度が上がり、事業者の要望の数も増え 9 駅となっている。